

# クサカゲロウ

校庭を散歩していると「うどんげの花」を見つけた。白くて小さい粒が細い糸でぶら下がっている。この粒、なんだか分かる？遠い昔、この得体の知れない白い粒を見つけた人が、奇妙な“花”だと思い込み、もしかしてこれが三千年に一度咲くと伝えられている「うどんげ（優曇華）の花」なのではないか？！と騒いだことがあるそう。うどんげの花は、**仏教の教典に「幻の花」として載っていて**、如来様が訪れる時にだけ咲くと言われているのだそう。

もちろん、校庭のこの粒々の正体は、残念ながら伝説の花ではない。**クサカゲロウという虫の卵**だ。クサカゲロウのメスは産卵の際に器用に糸を伸ばしてその先に卵をつける。外敵に食べられにくくなるのだろうか。

さて、じつを言うとこのクサカゲロウのいきもの記は3年前くらいに書いたのだけど、色々あってお蔵入りしていた。お蔵入りしたネタは他にも色々あって、出せなかった主な原因は、だらだら書いているうちにその生き物の旬が終わったり、他に書きたいやつが現れたりしてタイミングを逸したことによる。では、今回なぜクサカゲロウを掘り返したのかと言うと、じつは**次に出そうとしてるネタの伏線**になっているからだ。なんと、**このクサカゲロウに寄生するハチについて新発見が……**乞うご期待。



ヤマトクサカゲロウ？（左）とカオマダラクサカゲロウ（右）の成虫  
クサカゲロウは脈翅目というグループで、英語ではlacewing fliesという。翅の脈（翅脈）がレースのように繊細で美しい。



仏教の伝説の「うどんげの花」...ではなくクサカゲロウの卵  
2020.8.4 ヘクソカズラのつぼみから細い糸が伸び、その先端に白い粒状の卵がぶら下がっている。昔の人はこれを花だと思い、なんじゃ変なこの花は？！と騒ぎになったとか。



交尾の様子 2021.5.2



ゴミを背負う幼虫（コガタクサカゲロウ属カオマダラクサカゲロウの幼虫？） 2021.4.28  
クサカゲロウは幼虫がとても面白い。食べかすや自分の脱皮殻などを背負う習性があるのだ。「アリジゴク」として有名な「ウスバカゲロウ」もクサカゲロウと同じ脈翅目だ。ウスバカゲロウもクサカゲロウも、どちらも幼虫が大きなキバを持っている。



ゴミを背負わないタイプもある（ヨツボシクサカゲロウ幼虫） 2021.5.22  
クサカゲロウ属などはゴミを背負わないようだ。クサカゲロウの仲間は植物の害虫であるアブラムシを食べるので、農家にとっては益虫だ。害虫の天敵として養殖・販売されているらしい。



クサカゲロウの繭  
クサカゲロウの幼虫は成長すると繭を作り、その中で蛹になる。繭にはゴミがたくさんついていて装飾されている。カムフラージュの効果があるのだろうか。